

平成29年度 年末年始無災害運動実施要領

1 趣旨

年末年始無災害運動は、働く人たちが年末年始を無事故で過ごし、明るい新年を迎えることができるよう、事業場等の取組促進を図る趣旨で、昭和46年から厚生労働省の後援のもと中央労働災害防止協会が主唱する運動で、本年度で47回を迎える。

わが国の労働災害は、長期的には減少傾向をたどり、平成28年は死亡者数が過去最少となったものの、死傷者数は前年を上回った。また平成29年上期も、死亡者数は前年同期比1.3%減となったが、死傷者数は同1.2%増で推移している。特に、陸上貨物運送事業は死亡災害、死傷災害とも前年同期を上回り、第三次産業での死傷災害も依然として増加傾向にある。

この背景には、非正規労働者など現場経験の浅い労働者の増加、高齢労働者の増加などに加え、長時間の労働、若者を中心とした危険感受性の低下、さらには機械設備の老朽化など、多様な事象があると考えられている。

一方、健康面では、義務化されたストレスチェックの実施と効果的な運用によるメンタルヘルス対策の強化、化学物質のリスクアセスメントの実施、腰痛予防対策や熱中症予防対策の充実などに対して、より適切な対応が必要となっている。

職場の安全と健康を確保するためには、経営者、労働者双方が改めて安全衛生意識を高め、経営トップの強い決意のもとで安全衛生活動の総点検を行い、安全衛生管理体制の見直し、安全衛生教育の徹底を図ることが必要である。

とりわけ、年末年始は慌ただしい中での大掃除や機械設備の保守点検・始動等の作業が多くなるほか、積雪や凍結による転倒等の危険が増す。また、日ごろ行っている確認作業が不十分になったり、怠ったりすることでミスや事故が生じる可能性が高まる。各事業場、職場においては、作業前点検の実施、作業手順や交通ルールの遵守、非定常作業における安全確認の徹底、保護具等の点検の実施、転倒等への注意、労働者の健康状態の確認などに努めることが普段にも増して重要となる。

このような状況を踏まえ、本年度の年末年始無災害運動は、

「異常なし！ ダブルチェックで念入りに 年末年始もゼロ災害」

を標語として展開することとする。

2 実施期間

平成29年12月15日から平成30年1月15日までとする。

3 運動標語

「異常なし！ ダブルチェックで念入りに 年末年始もゼロ災害」

4 主唱者

中央労働災害防止協会

5 後援

厚生労働省

6 実施者

各事業場

7 主唱者の実施事項

- ①機関誌、ホームページ等を通じての広報
- ②報道機関等を通じての周知
- ③リーフレット等の制作および配布
- ④小冊子、ポスター、のぼり等の頒布

8 事業場の実施事項

- ①経営トップによる安全衛生方針の決意表明
- ②リスクアセスメントおよび労働安全衛生マネジメントシステムの導入・定着
- ③ストレスチェック結果等を活用したメンタルヘルス対策・過重労働対策の推進
- ④KY（危険予知）活動を活用した非定常作業における労働災害防止対策の徹底
- ⑤機械設備に係る一斉検査および作業前点検の実施
- ⑥火気の点検、確認等火気管理の徹底
- ⑦安全保護具・労働衛生保護具の点検と整備
- ⑧はさまれ・巻き込まれ災害の防止対策の徹底
- ⑨交通労働災害防止対策の推進
- ⑩安全衛生パトロールの実施
- ⑪化学物質のリスクアセスメントの実施を含めた化学物質管理の徹底
- ⑫年末時期の大掃除等を契機とした5Sの徹底
- ⑬年始時期の作業再開時の安全確認の徹底
- ⑭転倒防止、腰痛予防、受動喫煙防止の対策の推進
- ⑮健康的な生活習慣（睡眠、飲酒）に関する健康指導の実施
- ⑯インフルエンザ等感染症予防対策の徹底
- ⑰自然災害等に伴う復旧・復興工事等における労働災害防止対策
- ⑱安全衛生旗の掲揚および年末年始無災害運動用ポスター、のぼり等の掲示
- ⑲その他安全衛生意識高揚のための活動の実施

平成29年死亡者数が急増 厚生労働省「緊急要請」発出中！

年 年
始 末

無災害運動

主唱：中央労働災害防止協会 後援：厚生労働省



2017 12/15 ▶ 2018 1/15

最新の安全衛生情報を配信！
無料 中災防メルマガ会員募集中
 詳しくは

賛助会員募集中！
 研修会割引、定期刊行物・週間見本品の送付、専用サイトの利用

応援します 明日の安全・健康・快適職場
JISHA 中災防

中央労働災害防止協会（中災防） ※お問い合わせは総務部 広報課
 〒108-0014 東京都港区芝5-35-2 【TEL】 03-3452-6449 【FAX】 03-3453-8034
 【ホームページ】 <http://www.jisha.or.jp/> 【E-mail】 koho@jisha.or.jp

年末年始の災害防止を徹底しよう!

年末年始は何かとあわただしく、生活のリズムも変わりやすい時期です。安全で健康に年末を締めくくり、新たな年をスタートできるように安全衛生活動のポイントをいくつかご紹介します。

非定常作業時の災害を防ぐ!

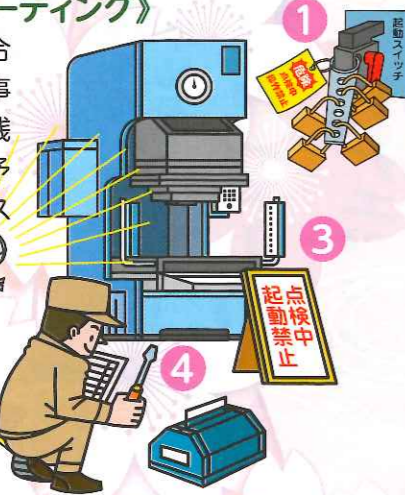
年末年始は、大掃除などで一斉に設備を停止した上で点検や修理を行うなど、通常とは違った非定常作業が多くなります。特に「はさまれ・巻き込まれ」災害を防止しましょう。

《事前準備》

作業計画書の作成、作業の手順・方法の決定、必要な資格の確認。これらを協力会社や安全衛生担当部門など関係者が事前にリスクアセスメントも実施し調整。

《作業開始前ミーティング》

作業の進め方、合図の方法、禁止事項などを確認。残留リスクや危険予知実施に基づくリスク情報の確認と共有。必要な保護具の着用・確認。



1 起動スイッチ等に施錠。複数人で作業する際は、複数の錠で施錠し、各作業者が自分のキーを持つ=ロックアウト。

2 暗い場所は補助照明などにより、適正な照度を保つ。

3 動力を遮断し（電源を切り）、機械設備を完全に停止させ、操作盤等の近くに「点検中のため起動厳禁」などの表示をする。

4 チェックリストなどを使って漏れなく点検。指差し呼称で手順や安全の状態などを確認。

作業中に不測の事態が生じたら、作業を中断し、作業指揮者に報告。

合図は大きな声でハッキリと決められた方法で。

《作業が終了したら》

- 作業のため無効にした安全装置、取り外した安全カバーなどは、元に戻す。
- 作業場を整理・整頓。
- ヒヤリ・ハット情報などがあれば、作業指揮者に報告。

冬季の安全運転



交通事故の死者数、発生件数、負傷者数は年の後半に多くなる傾向にあり、いずれもピークは12月となっています。

●冬季の運転のポイント、例えば…

【出発前の準備】

- 目的地方面の交通情報や降雪等気象情報を収集。
- タイヤの磨耗状態、燃料の補給、タイヤチェーンの使い方を事前に確認。冬用タイヤでも走行困難なことがあるため、タイヤチェーンは必ず携帯する。

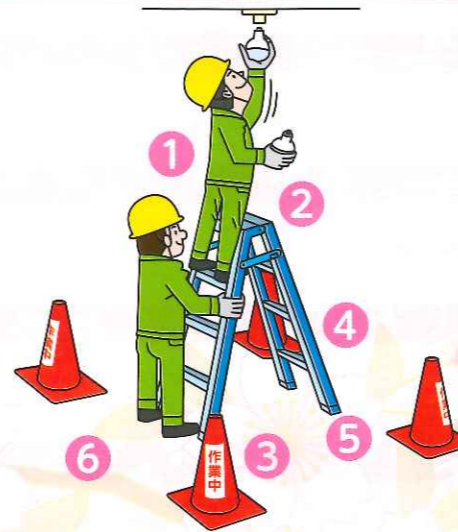
【「急」のつく運転を避ける】

- 急ハンドル/急ブレーキ/急発進などはスピンやスリップの原因。

【凍結しやすい場所に注意】

- 橋の上、日の当たらない道路、交差点やカーブの手前などは凍結しやすいので、あらかじめスピードを落として徐行運転をする。

脚立作業のポイント



- 1 天板の上に乗らない。脚立にまたがらない。物を持ちながら昇降しない。
- 2 天板から2段目以下で作業し、足を軽く開いて、足や腰を軽く天板に当てると安定する。
- 3 周囲に「作業中」など注意喚起の表示をする。
- 4 脚立は原則として、2m未満のものを使う。
- 5 脚部に滑り止めの付いている脚立を使用し、開き止め金具を確実にロックする。
- 6 水平で段差のない、安定した箇所に設置する。

転倒災害の防止のために

労働災害で最も多いのが「転倒」です。* 転倒災害を防ぐため、職場に危険な箇所がないか、通路の安全が確保されているか、チェックしましょう。



例えば…

- 床や通路の凹凸は補修または保護カバーをしているか
- 階段の滑り止めは外れていないか
- 通路や出入り口、曲がり角、エレベーター前、階段などに物が置かれていないか
- 床のゴミ、油、水をすぐ拭き取るようにしているか
- 床をほうコード類にカバーが付いているか
- 安全な踏み台、はしご、脚立は整備されているか
- スイッチ、消火器、非常口の前に物が置かれていないか
- 物のはみ出しや頭上に障害物はないか

*平成28年の統計。厚生労働省「労働者死傷病報告」より

「年末年始無災害運動」関連 中災防図書・用品

ポスター



用品

異常なし! ダブルチェックで念入りに年末年始もゼロ災害



図書



ご購入はコチラ

<http://www.jisha.or.jp/order/index.php>
TEL 03-3452-6401 FAX 03-3452-2480